

第251地区 第11分区



1987~1988

The Weekly Report of

Hakodate North R.C.

函館北ロータリークラブ会報

チャールズ C. ケラー 国際ロータリー会長テーマ

ROTARIANS---

UNITED IN SERVICE—DEDICATED TO PEACE

ロータリアン---

奉仕に結束—平和に献身



橋本 三郎「飛 翔 ▲A」1960 (昭35) 油彩・キャンバス 129.5×192.0
北海道立函館美術館蔵

《第1168回例会》 第 12 号 9月16日 (水)

本日のプログラム

「早 朝 例 会」

午前7時 七重浜「洞爺丸慰霊碑」の清掃

★会 長 川村 邦雄

★幹 事 斉藤 紀一

1987～1988

〈第1167回例会〉第 11 号

9月9日の記録

◎司 会 川村 邦雄 会長 ◎齊 唱 我等の生業

◎ピジター 札幌東R.C.大宮豊頼君、函館R.C.小林一三君他3名

◎ゲ ス ト ㈱日刊政経情報社 取締役社長 菅野 剛造 氏

◎会長報告 川村 邦雄 会長

- 25周年記念事業企画会議が全正副委員長の出席をもって9月2日に開かれまして、事業の内容・予算等を討議しましたが、来る9月30日の例会において臨時総会を開き予算について審議したいと思います。ご協力の程お願いします。

◎幹事報告 齊藤 紀一 幹事

- ロータリーダイアリーとカレンダーの申込を受付したいと思います。
- 次会例会は早朝例会であります。七重浜の「洞爺丸慰霊碑」の清掃を行いたいと思いますので、多くの会員の出席をお願いします。
- 例会終了後、年次大会出席予定の方と打ち合せ致したい件がありますので、よろしくをお願いします。

◎親睦活動委員会 南木 哲雄 会員

ニコニコBOX投入報告

川村(卿)会員……………受付に新入会員が居りましたので。

吉行 会員……………新入会員ですのでよろしく。

太田会員・椎谷会員・鈴木会員・立花会員

……………BOXに協力。

◎職業分類委員会 戸崎 孝二 委員長

- 新規に2業種オープンすることになりました。

「自動車販売」 「道路工事」

◎卓 話 ㈱日刊政経情報社

取締役社長 菅野 剛造 氏

「私の考え」 — 函館県分県推進について —

お招きを頂きましたが、私は口下手でありますからお断りをしたのでありますけれども、多くの会員の方々が日刊政経情報の愛読者であるとお聞きしましたので、お引き受けすることにしました。本日は私個人がいつも感じていることを話してみたいと思います。

これはあくまでも私個人の考えでありますので、いろいろご批判・ご不満があらうと存じますが、それは又後日お受けしたいと思います。

函館はとても住みよい街だといわれますが、確かに気象条件に恵れ、夏は涼しく、冬は割合に暖い、そして公害企業もなく、交通機関については大体完備されており、人情も細かである。全く言うところがありません。転勤者の多くが、退職したら函館に住みたいと言うのも、あながちオセジとは言えないと思います。

こんなに良い街であるにも不拘、函館は人口が減少化にあり近い将来30万台の大台を割るのは間違いないと言わなければなりません。産業も停滞基調が続き、生産も消費も伸び悩んでいるのが現状ではないでしょうか。

最近、多くの学者・研究者・著名な経済人が函館市を訪れるようになり、さまざまなシンポジウムも開かれて、色々なお話を伺う事が出来るようになりました。多くは、この函館の現状を言及して、私達地元人にとっては、悔し涙に暮れてしまうような、厳しいご意見を述べております。今春来函の某大学の

教授は、「大体、人口30万も抱えながら、千人以上収容能力のあるホールが一つしかないというのは、全国広しといえども、函館ぐらいじゃないですか。」と驚いてみせ、恰も、民意が低いと言わんばかりでした。

しかし、函館をこの情ない状況に陥れた背景は、市民だけにあるのでしょうか。私は、決して、そうではないと思います。多くの助言者は、一面だけを取上げて問題の本質に言及していないと思うからです。函館を取り巻く極めて重大な事実を見逃して来たと言断言したいのであります。

それは、一言すれば、函館には中世より和人・日本人が住み着き、独特の風俗・文化を形成した土地であるにも不拘、明治以来100年余にわたって、ただ単に北海道の一地域としての、しかも、南の辺境としての地位でしか扱われて来なかったという事実なのであります。

北海道の面積は広大です。その広さは東北6県に新潟県をプラスした面積と同じなのです。したがってそれぞれの土地には、独自の風土・文化があり、産業にしてもその土地に根差した特性があることが当然のことなのです。そこに住む人達の考え方、価値観も大きく違うわけです。それを、たった一つの自治体で、画一的に統治しようとするのですから、いろんな弊害が出て来たとしても決して不思議ではありません。具体例をあげればいろいろありますが、要は北海道では、面積があまりにも広いため、何をやっても、常にどこかで不平不満が積みまとうこととなります。知事も、地方の本当の不平不満の種が何であるか、見極める事もできないし、いや、たとえそれが判ったとしても、結局、行政としては、思い切った手を打つことが出来ず、八方美人的な施策に終わってしまうというわけです。

そして重大なことは、北海道がこんなにも広大であるにも不拘、一つの行政体ですから、国の北海道に対する扱いは、他の面積の小さい県と全く同じであるということなのです。国は、国の施設については1県1個主義を徹底してお

ります。となりますと、北海道の場合僅かな例外を除き、殆んどが道都札幌に集中されることになってしまいます。他県であれば県庁所在地へ出向く場合でも大して時間を要しません。北海道は他県のように行きません。結局、国の1県1個主義は、札幌のみを大きくし、地方を逆により小さくして行ったのです。

お陰で、札幌は大きくなりました。道央圏は北海道の27%の面積しかありませんが、人口は55%、製造出荷額は57%、商品販売額は66%を占めるに至り、又全道55大学のうち35大学が札幌周辺に集中し、学生数に至っては実に80%を占めているのです。この広い北海道において札幌を中心に人口、文化、行政、経済のあらゆる分野で肥大化し、さながらリトル・トーキョウの観を呈しているのであります。現状では均衡のとれた発展は望めない仕組みになっているのであります。

例えば、厚生年金を全道で集めながら、会館は札幌にしかない。この地域差別は行政の怠慢と言うしかありません。

行政機能を分散して均衡ある発展を展開して行かなければならない為に、全道各地に、北海道分割、つまり北海道を複数の県にすべきだと言う北海道分県論が台頭し、昭和58年10月には釧路において、更に昭和61年10月には旭川において道北協議会が生まれました。これはまさに各地において札幌偏重行政の歪みを正すべきとする声の高まりであります。

しかし、私は、函館こそ、真っ先に分県すべきとの主張を展開しなければならなかったと思うのです。歴史的にみても、その方が自然だからです。

北海道の歴史を簡単にふりかえって見ますと、エゾから北海道という呼び名に変わったのが、明治2年であります。そして、この年から大開拓の行政がスタートしたのです。

明治 5年 札幌開拓庁を本庁として函館外4ヶ所に支庁を置く。

明治15年 開拓使を廃止し、函館・札幌・根室に3県を置く。

明治19年 3県を廃止し、北海道庁を設置。

明治30年 道庁下に19支庁を置く。

そして、この道庁時代は、昭和22年の地方自治法の施行に伴い、地方自治体としての道庁に変るといふ経緯をへて、現在に続いているのです。

なぜ、明治政府は明治19年に極めて合理的な北海道の3県制を僅か4年で廃止したのか? 「植民地という特殊な地域に、府県と同じような行政をあてはめることや、相互に関連深い開拓事業などを、複数の官庁に分散することは、もともと無理であった」というのが廃止の理由であります。これは非常に重大なことであります。明治政府要人は北海道を「一つの植民地」としてしか見ていなかったのであり、植民局という名称より北海道庁と言った方が単に聞こえがいいという事であったのです。確かに、当時の北海道には未開の土地も多くそうした特殊な地域には、植民地政策も必要であったと思いますが、少なくとも、函館・道南には別の政策が必要であったと考えます。

中世以前より函館には下海岸を中心に和人の家が数百軒もあり、漁業を中心に経済活動が盛んであったと古書にも記されており、又徳川幕府も松前藩を置き汐首と熊石とを結ぶラインより南を和人の土地と定め、奥地と区別をしていたのです。つまり、この函館地域は、北海道の中にあつて、歴史的にも、文化的にも、外の地域とは全く違うのであります。しかるに、明治政府は、独自の歴史と文化を持つ函館・道南を、他の未開発地域と全く同一視して、植民地と見做したのであります。

現状としてみる限り、人口23万人の盛岡市の問題が岩手県全体の問題として、又人口29万の青森市の問題が青森県全体として考えられるにも不拘、人口約30万の函館市の問題は決して北海道全体の問題とはならないのです。函館の後進性は、実は明治19年の3県廃止、北海道庁の設置に端を発している

のです。函館が他地域と共に均衡ある発展を望むなら、函館県として独立する以外に道はないと言わざるを得ません。函館は県庁の所在地とみなすべきであります。これは決して地域エゴではありません。そのことによって札幌の過密化を防ぐ事になります。函館の過疎化を防ぐためには、分県こそ急務であります。

分県の場合のメリットは沢山ありますので列挙は省略しますが、要は県民意識、住民意識が高まり、函館の良き時代にあったと同質のエネルギーが、それによって爆発すると確信します。もちろん、分県は簡単には出来ません。何よりも、市民・住民の意識の高揚を進めなければなりません。しかし法律的にはそんなに難しいことでもないのです。考え方としては、自治体の合併と逆のことを思えばよいのです。

函館にも分県を推進しようと言う運動の芽が出て来ました。そうした折、皆様と一緒に分県について考えてみたいと思ひまして、今日は、これをテーマとさせていただきます次第です。

◎喜多会 第3回ゴルフコンペ成績 62年9月10日(木) 大沼レイクゴルフクラブ

| | | | TOTAL | H | N | 次回H | 取切戦得点数 |
|-----|----|----|---------|----|----|-----|--------|
| 優勝 | 畑 | 昌好 | 96 | 36 | 60 | 26 | 11 |
| 準優勝 | 佐藤 | 宏 | 89 | 20 | 69 | 17 | 13 |
| 1位 | 吉田 | 隆 | 96 | 22 | 74 | 22 | 9 |
| 2位 | 松橋 | 博 | 83(B・G) | 5 | 78 | 5 | 17 有資格 |
| 3位 | 金沢 | 秀幸 | 89 | 10 | 79 | 10 | 7 |
| 4位 | 川村 | 昭夫 | 107 | 27 | 80 | 27 | 11 |
| 5位 | 小池 | 凌一 | 104 | 23 | 81 | 23 | 7 |
| 6位 | 立花 | 明男 | 106 | 23 | 83 | 23 | 12 |

取切戦得点 14点 三沢洋大、11点 近藤章二、9点 中川洲平
 7点 三本木 元、6点 松見修二・安藤勝見・加登川 清・加藤久春・
 戸栗 力・久保幸一、3点 伊藤康男・南木哲雄・新 博夫・高橋仁志

(ルール確認) 優勝者は次回HD 2割カット { 但しカットしてもアンダーの場合
 準優勝者は " 1割 " アンダー分もカットする。

☆次回は、10月8日(木) 北海道C・C大沼コースの予定です。奮って参加を!!



函館EXPO'88 1988.7.9~9.18
 青函博 成功させよう

◎ 出席報告

| | | | | |
|--------|-----|-------------|-------------|---------|
| 会 員 数 | 66名 | 出 席 席 | 函 館 北 9月 2日 | 95.16% |
| 出 席 | 39名 | | 函 館 東 8月25日 | 93.06% |
| 欠 席 | 27名 | | 函 館 8月27日 | 92.56% |
| 他クラブ出席 | 20名 | | 函館五稜郭 8月28日 | 100.00% |
| 出席合計 | 59名 | | 函館亀田 8月31日 | 90.00% |
| 除 外 者 | 5名 | | | |

次回・9月30日
プログラム
 臨時総会

例会日：毎週水曜日 12:30~13:30 例会場：函館国際ホテル
 事務所：函館市大手町5-10 日魯ビル3F TEL (0138) 23-3870

昭和62年9月16日

函館北ロータリークラブ
 幹事 斉藤 紀一

会 員 各 位

今般、当クラブ会員より下記の方の入会の推せんがありましたので、理事会はこれを職
 業分類委員会ならびに会員選考委員会にはかりました結果、両委員会よりそれぞれ適格で
 あるとの報告をうけました。

よって、理事会はその報告に基づき会員候補者として、これをクラブ内に事前発表する
 ことにいたしました。

つきましては、同候補者の入会に対してご異議のある方は、来たる9月25日までに書面
 により幹事あてお知らせ下さるようお願いいたします。

| 氏 名 | 職業分類 | 役 職 | 推 薦 会 員 |
|-------|--------|------------------|---------|
| 陳 有 藻 | 循環器内科医 | 陳 内 科 クリニック 院長 | 斉 藤 紀 一 |
| 井 村 茂 | 矯正歯科医 | みはら 歯科矯正クリニック 院長 | " |
| | | | |
| | | | |